

# 平成20年産米の需要情報について

平成19年12月13日

## 1 熊本県への米の需要量（生産目標数量）の情報

熊本県における平成20年産米の需要量は、昨年と同量の206,460トン（40,090ha）となった。

（参考）米の需要量（生産目標数量）の推移

	H18	H19	H20
（対前年） 熊本県	（99.9%） 210,340トン	（98.2%） 206,460トン	（100%） 206,460トン
（対前年） 全国	（97.9%） 833万トン	（99.4%） 828万トン	（98.4%） 815万トン

## 2 市町村別需要情報の算定方法

市町村別需要量（生産目標数量）については、営農の安定性・継続性及び需要実績を配慮する観点から全体の98%を「平成16年産から平成18年産までの市町村別生産目標数量の平均値」による配分とし、残りの2%については、需要に応じた米づくりを推進するため各市町村の「集荷円滑化対策加入数量」、「収入減少影響緩和対策（ナラシ）加入数量」、「稲種子契約数量」を勘案し配分した。

また、20年産から需要量を面積に換算した数値を付記する。

※詳細別紙

## 3 市町村別の需要量（生産目標数量）等

（別紙のとおり）

## 平成20年産米の市町村別需要量（生産目標数量）等の算定方法

### 1 需要量（生産目標数量）の算定方法

① H16～18年産の各市町村別生産目標数量の平均割（98%）

・市町村別平均生産目標数量＝H16～H18市町村別生産目標数量の合計／3

② H19年産の集荷円滑化対策加入数量割（1.4%）

・市町村別対策加入数量割＝H19市町村別対策加入数量／H19県全体対策加入数量

③ H19年産米の収入減少影響緩和対策（ナラシ）加入数量割（0.5%）

・市町村別対策加入数量割＝H19市町村別対策加入数量／H19県全体対策加入数量

④ H19年産稲種子契約数量割（0.1%）

・市町村別対策加入及び種子契約数量の合算割＝H19市町村別合算数量／H19県全体合算数量

⑤ 横島干拓分（別枠）

#### 使用した数値等

○ H16～18市町村別生産目標数量（県）

平成16～18年産の米の市町村別生産目標数量

○ 集荷円滑化対策加入数量（国）

平成19年産集荷円滑化対策加入者の生産確定数量（H19年11月1日集計時点）

○ 米の収入減少影響緩和対策（ナラシ）加入数量（経済連）

平成19年産米の収入減少影響緩和対策（ナラシ）加入者の生産確定数量

○ 稲種子契約数量（主要農作物改良協会）

平成19年産稲種子契約数量

※（ ）内は出典元

## 2 面積換算値の算定方法

$$A = \frac{\text{市町村別需要量 (※1)}}{\text{7中5による市町村別配分基準単収(※2) × 統計補正係数(※3)}}$$

Aの合計を県の面積換算値(※4)に合わせるため以下の補正を行う。

$$\text{市町村別面積} = \frac{40,090 \text{ ha}}{\text{(県の面積換算値)}} \times \frac{A}{A \text{の合計}}$$

- ※1 県が算定し市町村に情報提供する市町村別の需要量に関する情報。
- ※2 統計の市町村別収量の直近7ヶ年のうちその最高値と最低値を除いた5ヶ年の平均値(7中5)。(生産調整方針の運用に関する要領別紙1第2の1)
- ※3 地帯別(県北、県南、阿蘇、天草)に設定する補正係数。統計の平年収量と市町村別配分基準単収の乖離を調整する。(生産調整方針の運用に関する要領別紙1第2の1)
- ※4 国から示された熊本県の需要量を統計の平年単収で換算した面積。